

3月29日 創世記22章1～19節

【解説と黙想】

イサクの奉獻

アブラハム最大の試練

神様はアブラハムに約束されました。「あなたは多くの国民の父となる」「あなたの子孫を砂粒のようにする」「あなたの子孫にこの地を与える」。アブラハムは、子孫と土地に関する約束を繰り返して聞いてきましたが、25年間待ってようやく約束の子イサクが与えられました。しかし「神はアブラハムを試された」のです。

神は「あなたの愛する独り子イサクを焼き尽くす献げ物としてささげなさい」と命じます。アブラハムに語られた神の約束は独り子イサクを通して成されるものです。しかし神の命令は、そのイサクを焼き尽くす献げ物としてささげなさい。つまり殺しなさいというものでした。

カルヴァンは「神の約束と命令とは矛盾する」と記します。これは頭で理解することのできない命令であり、アブラハムにとっては最大の試練です。しかし、神はアブラハムを「イサクの父」から「多くの国民の父」とするために、この試練をお与えになったのです。

父の従順

信じられないような神の命令を聞いたアブラハムの言葉は記されません。ただ「次の朝早く、アブラハムはろばに鞍を置き、献げ物に用いる薪を割り、二人の若者と息子イサクを連れ、神の命じられた所に向かって行った」のです。

出発して3日目にアブラハムは若者に言います。「お前たちは、ろばと一緒にここで待っていなさい。わたしと息子はあそこへ行って、礼拝をして、また戻ってくる」。アブラハムは主の命令に従い、息子イサクを焼き尽くす献げ物としてささげようとしています。しかし彼は「わたしと息子は礼拝をして、また戻ってくる」と言いました。

この時のアブラハムの信仰を、ヘブライ書の著者はこう記しています。「アブラハムは、神が人を死者の中から生き返らせることもおできになると信じたのです」（ヘブライ11：17）。この信仰をもって、アブラハムは息子イサクと共に歩き続けました。

子の従順

6節を見ると、アブラハムは焼き尽くす献げ物に用いる薪を息子イサクに背負わせています。全焼のいけにえをささげるための薪ですから、相当な量であったはずですが、それをイサクに背負わせました。この時のイサクはもう幼子ではありません。青年になっていたのでしょうか。

年老いたアブラハムのもとから走り去ることは難しいことではなかったでしょう。力もイサクの方が強かったのではないのでしょうか。「神が命じられた場所に着くと、アブラハムはそこに祭壇を築き、薪を並べ、息子イサクを縛って祭壇の薪の上に載せた」。これは、アブラハムが力づくでイサクを祭壇の上に縛ったのではないでしょう。イサクがその場を逃げず、父のしようとすることに従ったからこそできたことです。

愛する独り子をささげた父なる神さま

信仰によってアブラハムは独り子イサクを神にささげました（ヘブライ11：17）。実際には息子を屠ろうとしたとき、神ご自身がそれをやめさせ、身代わりの雄羊を備えてくださいました。イサクは助かったのです。

しかし、本当に愛する独り子をいけにえとしてささげたお方がおられます。父なる神ご自身が、罪人を救うために愛する独り子を完全ないけにえとして、おささげくださったのです。（小橋口貴人）

3月29日 創世記22章1～19節

【説教展開例】

イサクの奉献

◇…………… 単元のねらい ……………◇

神さまはわたしたちを愛しておられるがゆえに、試練を与えることによって私たちを鍛えようとされることを覚えたい。「わが子よ、主の鍛錬を軽んじてはいけない。主から懲らしめられても、力を落としてはいけない。なぜなら、主は愛する者を鍛え、子として受け入れる者を皆、鞭打たれるからである。」(ヘブライ12:5)

また、神のご計画を理解できなくても、主のご命令に従った父アブラハムと息子イサクの物語から、信仰の励ましを受けたい。

「いけにえは息子～アブラハムの試練」

導入

みなさんは、今までに大変だった思い出はありますか。「あの時はつらかった」。「あの時は悲しかった」。と思い出すことが何かあるでしょうか。アブラハムのことを何回か続けて学んできましたが、アブラハムの人生の中でも大変なことが何回かありました。一緒に暮らしてきた甥っ子のロトと別れなければならなかったこと。また、女奴隷ハガルと、ハガルが産んだ子どもイシュマエルを追放しなければならなかったことも、アブラハムにとっては本当につらいことだったと思います。

神様は、愛する者たちに試練を与えて鍛えるのだと聖書は教えています(ヘブライ12章)。愛しているからこそ、神様は私たちに試練を与えて鍛えようとされます。そして私たちが成長していくことをお喜びになるのです。

創世記22章1節に「これらのことの後で、神はアブラハムを試された」とあります。

「これらのことの後で」は、ようやく約束されていた通り、アブラハムとサラの間に息子イサクが与えられた、その後でということ。神様は愛する者たちの成長を願って試練を与えることがあります。ここで神様はアブラハムに試練をお与えになりました。

アブラハムの試練

どういう試練だったのでしょうか。神様はアブラハムにこう命令されました。「あなたの息子、あなたの愛する独り子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。わたしが命じる山の一つに登り、彼を焼き尽くす献げ物としてささげなさい」(2節)。

ようやく与えられた息子イサクを「焼き尽くす献げ物としてささげなさい」というのが神様の命令でした。「焼き尽くす献げ物」というのは、普通は動物を用います。動物を殺して、それを祭壇の上ですべて焼いて煙にしてささげることです。

イサクが生まれる前に、神様はアブラハムにこう約束されました。「あなたは多くの国民の父となる」「あなたの子孫を砂粒のようにする」「あなたの子孫にこの地を与える」。これらの約束は、すべて独り子イサクがいなければ実現しません。神様の約束が実現するためのたった一人の子どもがイサクなのです。そのイサクをアブラハムは愛していました。神様は全てわかっておられて、「あなたの愛する独り子イサクをささげなさい」と命じられたのです。

これは神様がアブラハムに与えた試練でした。神様のご計画は、アブラハムが「イサクの父」になることではなく「多くの国民の父」になることでした。そのために、アブラハムは大変な試練を通らなければならなかったのです。

アブラハムの従順・イサクの従順

愛する息子イサクをいけにえとしてささげるように命じられたアブラハムは、「次の朝早く、アブラハムはろばに鞍を置き、献げ物に用いる薪を割り、二人の若者と息子イサクを連れ、神の命じられた所に向かって行った」と記されています。次の朝早く起きて、イサクをささげるための薪を割るのですから、神様に従うことをすでに心に決めていたのでしょう。

6節「アブラハムは、焼き尽くす献げ物に用いる薪を取って、息子イサクに背負わせ、自分は火と刃物を手に持った。二人は一緒に歩いて行った」。キャンプファイヤーの準備を手伝ったことはありますか？今度のキャンプの時に先生たちを手伝ってください。1時間くらい火が燃え続けるために薪を準備します。それを背負って歩くとしたら結構大変だと思います。全焼のい

けにえを捧げたことがないので、わかりませんけれども、アブラハムはイサクひとりを焼き尽くすため薪を準備したのです。どれくらいの量の薪が必要なのでしょう。アブラハムはそれをイサクに背負わせたと書いてありますね。ですからイサクは幼子ではありません。ある程度の年齢の青年だったと思います。

2人で山を登りながら、イサクは父アブラハムに質問しました。「火と薪はここにあります、焼き尽くす献げ物にする小羊はどこですか」。もっともな質問です。神様に礼拝しに行くと言って山に登っているのに、肝心のいけにえにする小羊を連れてきてないじゃないかとイサクは質問したのです。お父さんはどうするつもりなのか。もしかしたらイサクはもう感じていたかもしれません。しかし、イサクはこれ以上問うことなく父に従って一緒に山を登って行きました。「きっと神が備えてくださる」と信じる父親にイサクは従いました。

試練にあっているのは父アブラハムだけではないですね。息子イサクも同じ信仰の戦いを戦っていたのではないのでしょうか。9節「神が命じられた場所に着くと、アブラハムはそこに祭壇を築き、薪を並べ、息子イサクを縛って祭壇の薪の上に載せた。そしてアブラハムは、手を伸ばして刃物を取り、息子を屠ろうとした」。青年であるイサクにとって、年老いたアブラハムのもとから走って逃げることは難しいことではありません。力もイサクの方が強かったでしょう。アブラハムがイサクを縛るとするのは、イサクの従順がなければできないことです。イサクは自分がいけにえとして捧げられることを悟りながら、そこを逃げずに、縛られて、祭壇の上に身を置いたので

す。

試す神様、備える神様

これがアブラハムの試練でした。神様はアブラハムが何を第一として歩む信仰者なのかを試されたのです。アブラハムが何よりも神様に忠実に歩む姿をご覧になり、神ご自身がイサクを屠ろうとするアブラハムをお止めになりました。そして身代わりとなる雄羊を備えていてくださったのです。

時に、神様は私たちを試されます。それは私たちの成長を願うからです。「神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます」(I コリ 10:13)。試練を与える神様は、同時に逃れる道を備えておられる神様です。神様を信頼して歩みましょう。(小橋口貴人)

《今週の暗唱聖句》

「わが子よ、主の鍛錬を軽んじてはいけない。主から懲らしめられても、力を落としてはいけない。なぜなら、主は愛する者を鍛え、子として受け入れる者を皆、鞭打たれるからである。」(ヘブライ人への手紙12章5, 6節)

3月29日 創世記22章1～19節

【小学科上級・中学科】

イサクをささげる

展開例

アブラハムさんは息子のイサクをささげるように神さまから命令されました。信じられない命令ですが、アブラハムは神さまからのこの命令にすぐに忠実にしがいました。

何日か歩いて、神さまが決めた山に到着し、アブラハムとイサクだけが山に登ります。でも肝心の神さまにささげる動物の犠牲をもっていないことを息子のイサクが気づきます。不思議ですね。

山の頂上で、なんと息子のイサクがしばらく、アブラハムがナイフをもった手をあげてイサクを神さまに捧げようとした。その瞬間、神さまからのストップがありました。危なかったですね！

アブラハムが神さまに忠実であることが神さまに分かりました。その時までのアブラハムの気持ちを考えてみると、どんなにつらかったらうかと思いませんか。自分のたった一人の息子を神さまに犠牲として

捧げてしまうことなんて普通できないと思います。

このお話は、イエスさまを地上の僕たちのところに送ってくださった父なる神さまのお気持ちと似ていないでしょうか。

僕たちにも誰にもあげることは絶対ムリというものがありますね。父なる神さまでもイエスさまはムリだったはずですが、でもイエスさまを僕たちのためにくださいました。みんなのお父さんだったら息子が死んでしまうくらいなら、きっと自分が死んだ方がいいと思うはずです。それと同じくらい大きな痛みを父なる神さまはイエスさまを僕たちにくださるために味わったはずですが、なぜならイエスさまは十字架に付いてみんなの罪のために死ぬために地上に来たのですから。

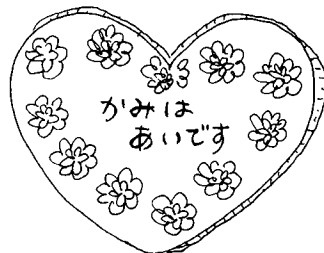
神さまのこの大きな決断によって僕たちは今、教会にいるのです。これが神さまの愛です。神さまのほんとうに大きな愛に感謝します。

〈工作〉神さまの愛に感謝しましょう

材料：厚紙か段ボール、花を造る紙（100円均一にあります）

準備：

- ①用意した厚紙をハート形に切る。
- ②紙を丸めて花をいくつか作ります。
- ③花を厚紙にくっつけます。
- ④厚紙の真ん中に「かみはあいです」と書きましょう。



3月29日 創世記22章1～19節

【幼稚科】

イサクの奉献

1. 創世記22：1～3を読みましょう。

①神さまの命令は何でしたか？ アブラハムは、どうしましたか？

2. 創世記22：4～10を読みましょう。

①神さまに命じられた場所へは、アブラハムと一緒に誰が行きましたか？

②アブラハムは何をしようと思いましたか？

③ヘブライ11：17～19も読みましょう。アブラハムは、なぜ愛する息子をささげようとしたのですか？

3. 創世記22：11～19を読みましょう。

①息子をささげようとしたアブラハムに、主の御使いは何と言いましたか？

②アブラハムに対して、神さまが誓われたことは何ですか？それは、アブラハム一人だけのための約束ですか？

③私たちのために、一人息子をささげた方は誰ですか？